

当報告の内容はそれぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors

第4回（通算第10回）

基幹研究「人類学におけるマイクロ-マクロ系の連関」公開セミナー

日時：2011年11月26日（土）13:00-18:00

場所：AA研マルチメディアセミナー室（306号室）

発表者と発表題目：

1) 常田 道子（AA研ジュニア・フェロー）

「タイ南部国境地域のマレー系ムスリムコミュニティにみる越境、ジェンダー、およびアイデンティティ」

2) 大川 真由子（AA研研究機関研究員）

「帰還移民の社会空間—アラブ性とアフリカ性をめぐるオマーン人の共同性と境界意識—」

要旨：

1) 「タイ南部国境地域のマレー系ムスリムコミュニティにみる越境、ジェンダー、およびアイデンティティ」

常田 道子（AA研ジュニア・フェロー）

本発表は、タイ南部国境地域のマレー・ムスリム・コミュニティにみられる国境を越えた活動とジェンダーおよびアイデンティティのつながりを、特に労働移動と結婚のパターンの変化に焦点をあてて考察するものである。

過去のマレーシアへの労働移動のパターンは主に男性による農業季節労働であったが、近年の労働移動は、女性、特に若い未婚の女性をも含むものとなり、農業から工業、そしてサービス業へと移行し、マレーシア側で働く期間も中期・長期へと変化した。

マレーシアで非合法的労働者として働くなかで、男性は自分たちにとっては「タイ＝自分達の土地/ウチ/故郷」のほうが「マレーシア＝マレーシアの人の土地」よりもいと強調する傾向があるのに対して、若い女性は南タイではできない経験や「モダン」なライフスタイルに触れることや、マレーシアの男性との結婚の機会などに新たな可能性を見出している。一方、タイに子供を残してマレーシアで働く女性たちのあいだには国境を越えた遠距離育児の難しさもみられ、既婚女性の経験は若い未婚の女性の経験とは一線を画す複雑さもあるといえる。

タイ南部国境地域のマレー・ムスリム・コミュニティでは、かつては男性も女性もマレーシア側のマレー・ムスリムと結婚する機会があったが、近年ではタイ側の男性がマレーシア側の女性と結婚することは非常に稀になっている。こうした結婚パターンの変化は、移民法のジェンダーバイアス、マレーシアの女性が外国人と結婚することをタブー視するジェンダー概念にかたちづくられた反移民的言論、マレーシアでみられるタイの女性に対する「従順」「やさしい」などというイメージなどに影響を受けているといえる。そして、こうした結婚のパターンの変化は、近年国境を越えたネットワークづくりにおける女性の役割を拡大させてきたともいえる。マレーシアのマレー・ムスリムとの結婚生活の実情には難

しきや矛盾もあるが、国境を越えた繋がりの方であることが南タイ出身のマレー・ムスリム女性の社会資本であることから、そうした女性にとっても国境は重要であるといえる。

こうしたジェンダーによって相違する越境のかたちは、国境と越境を語るうえで、全体的な移動の増加や減少を見るよりも、ジェンダー、世代、階級、パーソナル・コネクションのありかたなどによってかたちづくられる動きのありかたや、そうしたあり方の形成や変化の過程を考察していくことの重要性を示唆する。

タイ国内では宗教的にもエスニシティのうえでもマイノリティであるマレー・ムスリムにとって、タイ仏教徒との相違はアイデンティティの指標となっている。しかし、労働移動のパターンの変化と、マレーシアの国境と移民のコントロールの厳重化および反移民的な社会的言説のひろがり、南タイのマレー・ムスリムのあいだで「タイの人」であるという意識を高め、物理的および社会的現実として存在する「国境」が、アイデンティティの構成とパフォーマンスにおいても重要化してきたことが指摘できる。

特に、近年南タイからマレーシアに向かうマレー・ムスリム労働者の雇用先として顕著であるタイ・レストランでの調査は、タイ言語、タイ料理や、音楽、雑誌、テレビ番組などのタイ・メディアが、南タイのマレー・ムスリムの人々が国境という境界線を理解し、また作り上げていく上で重要な役割を担っていることを示している。また、サービス業に関する研究が指摘するように、労働者とクライアントとの関わりが労働の中心となるサービス業では、両者の間の既存のヒエラルキーの再生産や新たな境界線の形成がみられるものである。タイ・レストランへの就業の増加も、タイ南部国境地域のマレー・ムスリムのあいだにみられるマレーシアのマレー・ムスリムとの差異の感覚と、「タイの人」としてのアイデンティティの形成・実践・パフォーマンスを促してきたものであるとも考えられる。

国境は、タイ国境沿いのマレー・ムスリム・コミュニティの男性と女性（そしてトランスジェンダーな人々）の毎日の生活のあり方と、貧困と政治・社会的困難の中でのサバイバルのための方策に方向性をつけるものであり、彼らが自らの生活に影響を及ぼすローカル、ナショナル、トランスナショナルな力を理解していくうえで重要な標識として機能するものであるといえる。

2) 「帰還移民の社会空間—アラブ性とアフリカ性をめぐるオマーン人の共同性と境界意識—」

大川 真由子 (AA 研研究機関研究員)

本発表は、19世紀前半から20世紀半ばにかけて、オマーンの植民地活動に伴って東アフリカのザンジバルに移住したのち、1970年代に帰還したオマーン人（便宜上、アフリカ系オマーン人と呼ぶ）の社会空間を民族的共同性の観点から明らかにすることを目的としている。

社会空間とは、人びとの日常的実践の場面において抑圧や交渉、葛藤などの相互行為によって構築される場であり、異質なものが共存し重層的な関係性から生成される。社会空間論においてはこれまでも異階層・異民族間アイデンティティの拮抗やせめぎあいに着目が置かれる一方で、最近では共同性を編成していく過程にも注目が集まりつつある。ただし構造的弱者による防衛的な共同性の形成が中心的事例であり、支配者や中間層に対してはこれまで大きな関心が払われることはなかった。

発表者が研究対象とするアフリカ系オマーン人は、本国の植民地活動に伴って支配者層として移住したものの、移住先がのちに英国保護領化されたことで、支配者層から中間層へ転落したという意味では、支配者／被支配者という枠組におさまりきらない存在である。さらに、数世代にわたる移民生活のなかで現地民と通婚したことから、多くがアラブとスワヒリ（アフリカ人）との混血となり、母語もアラビア語からスワヒリ語に変化した点も、彼らのアイデンティティが構築されるうえでの争点となる。

以上の点をふまえ、本発表では移住先と帰還先双方においてアフリカ系オマーン人がいかにアラブ性とアフリカ性を編成しているのかに関する5つの事例を紹介した。たとえば、移住先では現地民のスワヒリ（スンナ派ムスリム）との通婚を含めた友好関係を築いたとし、民族を越えた「ザンジバル人」という共同性を創出した。ここではスワヒリのイスラーム性やアラブ文明の享受が共同性の根拠となっている。その一方でアラブ協会を設立し、アラビア語新聞を発刊したり、エジプトなどのアラブ・イスラーム世界との連帯を強めるような動きもみられた。これは対英国という枠組において、支配者層への抵抗としてアラブ性が強調された。また帰還後も出身地アフリカへの支援活動をおこなったり、アフリカ系オマーン人同士で婚姻するという傾向がみられる一方で、彼らのもつアフリカ性（混血であることやスワヒリ語の知識）ゆえにオマーン生まれのオマーン人（ネイティブ・オマーン人）からの偏見や侮蔑に対して、系譜を利用してアラブ性を主張する。父系を重視するアラブの系譜上、アフリカの血が流れようとも父方にアラブをたどれることができればアラブ性を主張できるからである。

こうした事例からわかるのは、アイデンティティの源としては一貫してアラブ性を重視する一方で、アフリカ性への親密性と侮蔑が混在しているということである。こうした異質性の共存は社会空間の特徴のひとつでもあるが、どのような条件のもとで何を留保しながら民族的共同性を編成しているのかを詳しくみていくと、2つのことがあきらかになる。第一に言説レベルと実践レベルの乖離である。英国／アラブ／スワヒリという三者関係において、言説レベルではアラブ性を重視するのに対し、実践レベルでは、中間層としてスワヒリを囲い込み「ザンジバル人」という共同性を構築することで支配者層に対抗している。これに対し、ネイティブ・オマーン人／アフリカ系オマーン人という二者関係において、言説レベルでは（系譜を用いて）アラブ性のみを主張してアフリカ性は否定するのに対し、実践レベルではアフリカ性との共存（出身地への支援活動やアフリカ系オマーン人同士の婚姻選好）がみられるのである。

第二に、アラブ性とアフリカ性をめぐってはアフリカ系オマーン人とネイティブ・オマーン人のあいだで認識の乖離がみられる。アフリカ系にとってアフリカ性はスワヒリ／ズヌージュ（アラブ文明を享受していない非ムスリムの黒人）の区別が重要であるのに対し、ネイティブ・オマーン人にとってこうした区別は考慮されない。アラブ性に関しては、アフリカ系にとっては系譜に基づいて主張されるのに対し、ネイティブ・オマーン人にとっては言語・生活様式を含む民族文化として理解されるのである。

このようにコロニアルな帰還移民であるアフリカ系オマーン人を通時的に分析することによって、支配者層あるいは中間層からみた民族的共同性および、複数のアラブ性とアフリカ性から構成される重層的な社会空間であることを明らかにした。